

7月20日(土) 10:00~

「夏休み宿題お助け広場」の様子と
協賛団体紹介(厚生会館にて)

やま

福島県公立学校退職校長会耶麻支部

広 報

発行日 令和7年2月28日

発行者 支部長 菅井 一良

巻頭言 新年に思うこと

副支部長 阿部 充也



新しい年を迎え、会員の皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

今年の正月は、9日から大雪が続き自宅や周辺の雪かたしでたいへんご苦勞なされたのではないかと思います。私自身も、雪かたしで身体のあちこちに痛みがきて歩くのも一苦勞という始末でした。皆さんはいかがでしたでしょうか？くれぐれもお身体をご自愛ください。

令和6年度も残り少なくなりましたが、計画された支部事業も予定通り実施されました。計画・推進に当たられた担当の方々には心より御礼申し上げます。また、会員の皆さまには都合をつけて事業に参加して

いただきありがとうございました。

さて、私事で申し訳ありませんが、退職後の私と言ったら一応農家の長男なので時間つぶしに父母の野菜作りを手伝っていましたが、自分では何も考えていなかったし覚えてもいませんでした。友人が「農業日誌」なるものを書き綴ってよりよい野菜作りに役立てていると聞き、私もまねて3年前から書いてみました。師である両親も相次いで他界してしまった今は「農業日誌」だけが頼みの綱になっています。現在私は、自分の畑に、季節ごとにトマトやキュウリ、ナス、スイカ、プリンスメロン、サツマイモ、タマネギ、長ネギ、ジャガイモ等合計18種類の野菜を育てています。3年間の「農業日誌」を頼りに土作りや種まきの時期、液肥や顆粒状の肥料の加え加減など、試行錯誤しながら取り組んでいます。失敗もかなり多いですが、素人の野菜作りなので収穫量や出来具合等は期待せず、少しでも収穫でき食することができればと自己満足に浸っています。古希を迎える今年、少しでも身体を動かしながら健康で楽しい日々を過ごしていきたいものです。

生涯部活動報告

生涯部長 佐藤めぐみ

教育懇談会 (参加者 現・退職50名)

- 1 期日 8月22日(木) 14:30~17:00
- 2 会場 喜多方市立第二小学校
- 3 内容

○講話Ⅰ「教職員の働き方改革への取り組み
～学校は何が変わったか～」

講師 市教委学校課長 安藤裕明氏

○講話Ⅱ「魅力ある学校づくり、こんな実践～地域や退職校長会との連携～」

講師 市立上三宮小学校長 小野明彦氏

○グループ懇談「学校経営の悩みを語る
～何か光が見えた!～」



開会行事

講話の様子

- 4 成果と課題 (アンケート結果より)

講話では教育界の現状を参加者が再認識。小規模特認校の経営も参考になったようだ。

グループ懇談で、現職は「先輩の親身な助言に感銘」「懇談は有意義」という感想を寄せている。退職者からも「現場の課題解決に向け語り合える貴重な機会」と回答があった。

時間制限の中、スムーズな運営ができたのは、会員・会場校職員の配慮が大きい。今後も内容と構成を工夫し、実りある懇談会にしていきたい。

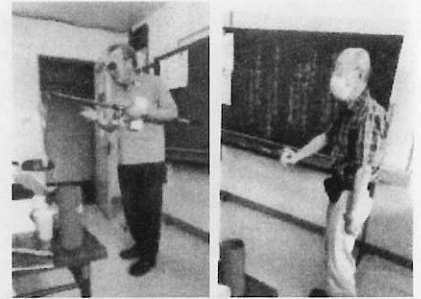
たまり場

厚生会館で新しく会員交流会を実施した。6月15日(土)は、参加者それぞれが趣味や教職の思い出を語り合った。9月7日(土)は、協力者、長谷川



6月のたまり場

良三氏の「海釣りの楽しさ」、五十嵐昭義氏の「短歌で日々心豊かに」という話を拝聴した。会員の協力で無理なく運営でき、有り難かった。



9月のたまり場

生活部活動報告

生活部長 鈴木 隆

昨年度に引き続き、令和6年度も「研修旅行」と「一年の健康を祝う会」の両事業を実施することができました。「研修旅行」は一部予定の変更もありましたが天候に恵まれ、有意義な時間を過ごすことができました。また、「一年の健康を祝う会」は和気あいあいに歓談し、楽しいひとときとなりました。ご理解とご協力下さいました会員の皆様に感謝申し上げます。

1 研修旅行

10月17日(木)に9名で研修旅行に出かけてきました。新潟県の角神温泉でお風呂に入り、その後西会津町の国際芸術村に出かけてきました。今回は、経費節約と機動性を重視し交通手段を乗用車の相乗りとしました。テーマは身近な小旅行ということで、ゆったりとした時間を過ごすことができました。



参加者集合写真



昼食の様子

2 一年の健康を祝う会

11月23日(土)に新丁字屋にて15名

の出席者を得て、一年の健康を祝う会を開催いたしました。今年も菅井一良支部長と佐藤定男氏による謡曲を披露していただきました。近況報告をそれぞれが行い、歓談しました。昔話、健康、最近の生活など話が尽きない楽しい会となりました。



参加者集合写真

ク ラ ブ 活 動 報 告

囲 碁 ク ラ ブ

代表 猪俣 薫

会員8人の真剣勝負は今年も熾烈を極め、勝者の容赦ない高笑いと敗者の悔し涙（大袈裟です）が展開されました。この興奮・感激を支部の皆さんにも味わっていただきたい。

今年（4～12月）の定例会の優勝者は以下のとおり。

4・5・7・12月・・・猪俣薫

6・9・11月・・・佐藤定男

8月・・・長谷川良三

金子杯（10月）は最終戦までもつれ、長谷川先生が優勝、高畑先生が準優勝となりました。

碁は『置き碁』により、初心者でも有段者と対等に打てます。ルールは白黒が交互に打つという他、2～3の簡単なテクニックを覚えれば、対局を通じて学ぶことができます。次年度の『たまり場』ではデモンストレーション

も考えておりますので一度ご体験ください。碁を介して皆さんと遠慮会釈のない笑顔の会話を楽しみましょう。

例会は毎月第1木曜日、喜多方市厚生会館で開催します。昨年からは椅子対局となり、膝に負担を抱えている私も集中でき、大いに楽しんでいます。



←金子杯での熱戦

金子杯優勝
長谷川良三氏→
（右）



グラウンドゴルフクラブ

代表 佐藤 定男

今年度もお盆・年末年始を除き、暑さ寒さに負けないで活動しました。80歳代6名、70歳代7名の高齢者集団ですが、ゴールポスト・スタートマット等自分たちでセットしての活動です。冬期間は旧岩月中学校講堂ですが、寒そうな姿は全く見られません。ホールインワンがあれば「おめでとう」「ナイス」と皆で褒め合う等仲良し集団です。週2回の活動ですが休む会員は見られません。TV・炬燵子守しておられる方、どうぞ見学においでください。毎週月・水曜日活動しております。

令和7年度活動計画

前年同様岩月町グラウンドゴルフ愛好会に交えていただいて下記により活動します。（本会から3名入会）

会員募集中です。

1 活動日 月・水曜日の週2回

但し、月曜部の祭日は休み

2 時 間

夏季（4～11月）8:30～11:00頃まで

冬季(12～3月) 9:00～11:00頃まで

3 年会費

1000円(暖房・消耗品等)

藤 宝 会

代表 菅井 一良

◎基本的に毎月第二金曜日に、佐藤定男氏宅にて宝生流小謡本を中心に実施

◎毎月第三水曜日は岩月公民館謡曲教室参加

◎喜多方宝生流連合会秋季謡曲大会の鑑賞

◎今年度も「健康を祝う会」で謡いの披露

「私の夢はね、はれの孫の結婚式で謡を謡う事なんだ」とはサークルの先輩の話です。

私達の父母の時代まででしょうか、一家の繁栄を願う結婚式には、結納治めから三々九度の結婚披露宴まで、7曲ほどの曲目を謡い、謡で終わる結婚式が一般的だったそうです。当時は家の格式を重んじ、〇〇家を代表する長男は特に「小謡」を習得することが、長男としてのステータスであり必須であったと聞いています。

生活様式や庶民文化は、時代の流れと共に変化していくのは自然の節理かとは思いますが、家族を愛おしく思う先輩の気持ちに直に触れ、心が温かくなったのを覚えています。

大人の遠足クラブ

代表 大堀 浄一

季節や行事等を考慮し、年間にわたり計画実施した。

※印は、会員希望で追加的に実施した行事。

4月17日 桜鑑賞ウォーク(6名参加)

5月13日 喜多方市美術館見学

予定では「三ノ倉菜の花ウォーク」であったが降雨のため中止

6月 8日 歓迎会を兼ね、今後の活動方針・規約等について話し合った

※8月26日 百万年前へのタイムトラベル(下見)

※10月 2日 中禅寺湖バス旅行

10月24日 百万年前へのタイムトラベル



講師は会員西村新六先生

高郷塩坪層のみならず山崎新湖や緑色凝灰岩まで話が及び、百万年前の高郷の海に思いをはせることができた。

12月19日 反省と計画を立て懇親会

おめでとうございます

賀詞受賞者の皆様より

ヤバイ教師

西村 新六



長生きをするとロクな事がない。罰として会長より原稿執筆の厳命が下ってしまった。

昭和34年9月、途中採用で裏磐梯小学校小野川分校に赴任。3学年複式学級を担任。村では大卒の

「本当の先生が来た」と期待していたが実際はどうであったかご想像に任せます。校庭で子ども達と焼き芋。「今度の先生味見だなんて自分で食ってんだと。」

3年間の僻地勤務を無事に？終え、喜多方二中に異動。大規模校に来て漸く俺も本当の教師になれた等と意気揚々としていたところ、先輩の先生達から「君は地学選考だから」と野外のことを質問されてもさっぱり答えられず、自分の無力さを痛感。福大の恩師の研究室を訪ね、研究テーマを戴き指導を受ける。調査結果を持って大学に数年通い、ようやく授業にも地域の事象を教材として導入できるようになり、中教研の野外講座の講師を受けたり、自惚れも昂じてきた。上司の説得も聞かず組合闘争に参加。地公法違反で10%賃

金カット、昇級延伸10ヶ月の処分を受け、履歴書の賞罰欄に記載する羽目となる。

中学校に12年、その後小学校に移り、心を入れ替え職務に専念し、実践記録を纏めたりし、恥ずかしながらソニー財団から表彰を2校で受けてたりもした。

今でも時々小学校から野外学習のボランティアの依頼が来ると、年甲斐もなく受けてしまう。子ども達の真剣な眼差しは生気を与えてくれるので、まだまだ長生きをしそうだ。舞い上がってヤバイ老人とならぬよう、会員の皆様、見張って下さるようお願いします。

教師が変われば生徒も変わる

秦 敬輔



昭和47年、武藤成能校長先生にお仕えた時のことです。主任松崎正先生、佐藤定男先生、他私を入れて数名の先生方が第三学年の担任を仰せ付けられました。校長先生から「学力で会津一になること」を要望されました。校長先生には放送設備の充実をお願いし、その設備を活用して、始業時間前30分間でテストと採点・要点の解説を行いました。週に必須教科5教科を一年間取組み、生徒もよく応えてくれました。入試模擬テストでは、毎回上位でありましたが、結局、校長先生の願いを適えることはできませんでした。しかし、お褒めの言葉を戴き嬉しく思ったことを覚えております。また、この取組みの中で、先生方の授業への姿勢が変わってきました。ベテランの先生が教科書を持ち静かに職員室を出て、教室の入口で待ち、ベルと共に授業を始め、ベルと共に授業を終える姿には、教育者としての威厳を感じました。若い先生方はお互いに授業を見せ合い、研修する姿が見られました。生徒の学習意欲や態度、生活も一編

し、運動面でも良い成績を収めるようになりました。52年前、温かい眼差しで見守ってくださった校長先生、学力で会津一の目標に時間を忘れ取組んだ先生方が思い出されます。

佐藤定男校長先生からは今もご交誼戴き、「教師が変われば生徒も変わる、教師が変わらねば学校は変わらない。」と、当時を懐かしみ語り合うこともあります。

日々是好日

大杉分校の思い出

鈴木 充正

教員として赴任した桧枝岐小学校。二年目、県内最果ての地、高度僻地校の大杉分校に勤務した。御池峠を越え30キロ、開拓地小沢平の真ん中にある分校である。

分校に寝泊まりの自炊生活、夜はランプの灯のもと劣悪な環境の下、若さならではの夢と希望を持ちつつ、貴重な体験を重ねてきた忘れがたい地である。

悩みは単学級の指導であった。限りある資料を生かし毎日手探りの状態を重ねながら、夢中で過ごしてきたように思う。

今から63年も前のこと、記憶が薄れ思い出せないことが多々あるが、卒業式を前にした三月末の峠越しで猛吹雪に遭遇し、命拾いしたことが強烈に残っている。

今こうして文章を書きながらも、朝夕眺めた裏燧の雄姿と開拓地を覆う一面の蕎麦畑、秋の地面を這うように流れる大雲海と満天の星々等が目に浮かぶ。僅か一年間であったが、大杉分校の体験は、自分にとって教育の世界を一步広げてくれたと思っている。

釣りに行きませんか

長谷川 良三

小学3年生の夏休みのこと。一杯機嫌で帰宅した父が何を思ったのか私と兄を連れて近くの沼に釣りに行ったことがあった。竿もま



だ満足に振れなかったが、3匹の鮒を釣り上げた。そのうちの1匹が25cmのピカピカに光るまさに『金鮒』であった。手元に伝わる震え、鮒が逃げ惑う時の糸鳴りの音。心臓がバクバクした。以来、釣りにはまった。

その後教員となり県内の各地に赴任したがその地その場所で釣り歩いた。背広に革靴姿でルアーを投げ、ワンカップ片手に沢を登り、台風が近づく中イナダを釣りまくったこともあった。

『釣りは楽しい』。皆さんとあの感動を分かち合いたいと思い『釣りクラブ』を立ち上げたいと思う。夏のサーフでのキス釣り、極寒の檜原湖での穴釣り、鏡のような日本海で月夜のイカ釣り……。興味のおありの方は下記に連絡をお待ちしています。

TEL 090-2790-0646 0242-85-2717

雪ニモマケズ

小林 一裕

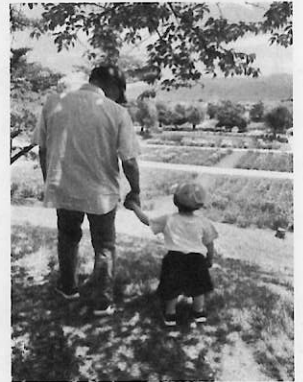
異常な暑さの夏が長かったので、まさか雪がこんなに降るとは辟易です。実家の熱塩加納町は特に降ります。屋根から落ちた分と合わさりとんでもない高さになるので、塩川から車で向かい雪との格闘です。

年末に役場から「集団検診の結果でお伝えしたいことがある」と呼び出しを受けました。「はて?」。恐々と訪問すると何とメタボ指導でした。そんなことで呼ぶか、と思ったのですが三か月後に腹囲を測定すると言われたので腹筋を鍛えようと思いました。大変な雪かきを筋トレと思えば一石二鳥です。そして一月後、結構頑張ったぞと腹囲を測ってみると「あれ……」、そう簡単ではないようです。

「満開の花しょうぶの小路行く孫とつないだ手を振りながら」。昨年、地元の花しょうぶ祭を盛り上げようと応募したこの歌が入賞し、孫と一緒に表彰式に出席しました。日記代わ

りに俳句や短歌を書き留めているのですが、こんなご褒美も新たな創作意欲を喚起してくれます。

年頭にあたり「雪ニモマケズ丈夫ナ体ヲモチ孫ト元気ニ遊び役ニ立ツコトガアレバ進ンデ行動スル、ソナ一年ニ私ハシタイ」と思うのであります。



人と直にふれ合うこと

加藤 崇

我家は息子夫婦、孫4人の8人家族だった。それが、3年前、突然、高齢夫婦2人だけになってしまったのだ。そんな折、大百姓の妻の実家から農事手伝いの誘いがあったのだ。こんな自分にも務まる作業があるのか不安だったが、沢山あったのだ。第一、作業者の多くがシルバーから派遣される高齢者だったのだ(教職を歩まれた方は皆無)。ゆったりした人、短気な人、気配りの深い人、自己中心的な人、同じく高齢者なのに様々だ。人生の喜び・悲しみ等も私とはどこか異なる人々だった。こんなだから、初めの頃は戸惑う思いだった。

しかし、それなのに、日々、作業を共に触れ合ううちに、そんな生き方だって次第に是認されていったのだ。そして、これと一緒に、3年前当時のあの胸塞ぐ悲しさや迷い、そして、その対応も前向きなものへと少しずつ変わっていたのだ。～仕事を持つことや様々な人と触れ合うことは、人をして「前向きな心」を膨らませてくれる～。今、私にははっきりと思えるのです。

それにしても、同じ教職にあった方々との月1回の「食事会」(現在のところ退職校長6名)は、私を癒やしてくれる。一緒に昼食をとり、何気ない雑談をするだけなのに、ただそれだけなのに、この一時がとても待ちどおしいのです。

教育の現場から

「西会津学びあいランド」をオープン！ ～西会津ならではの学びの環境づくりを目指して～

西会津町教育委員会教育長 五十嵐 正彦

「西会津学びあいランド」とは、隣接する（渡り廊下でつながっている）西会津小・中学校の施設や設備を小・中学校の別なく活用し、授業だけでは学べない様々な分野に対応したランドを開設し、児童生徒が「将来に夢や希望を持つことができる」「主体的に学ぶことができる」「個別最適な学び・協働的な学びができる」環境を充実させるというものです。併せて、地域に開かれた学校として、公民館講座などでも活用し、児童生徒と地域住民が共に楽しく学ぶことができる機会を創出し、西会津ならではの学びの環境にしていきたいと思います。現在の計画では、次の5つのランドを開設します。

① 探究創造ランド

中学校のPC室を中心に、プログラミング等を深く学び、3Dプリンターを活用してアイデアを形へとチャレンジできるところです。

② ふるさと未来ランド

中学校の展示ギャラリーを中心に、西会津の歴史や文化等について、テーマに沿った展示並びに講座等を行い、西会津の未来についても考えることができるということです。

③ 健康スポーツランド

体育館やグラウンド等の体育施設を中心に、様々なスポーツ等を体験し、楽しく体を動かし、健康な体づくりや体力づくりができるということです。

④ 世界交流ランド

中学校の英語科ステーションとその周辺を中心に、楽しく英語に親しみ、世界の人々との交流にもチャレンジできると

ころです。

⑤ 自然体験ランド

小学校のミネラル野菜畑やビオトープを中心に、豊かな自然に親しみ、野菜づくりや自然観察などをのびのびと行い、五感を養うことができるということです。

昨年9月20日にオープニングセレモニーを行い、「探究創造ランド」では3Dプリンターや実際に作ったものに触れてもらい、「ふるさと未来ランド」では町出土の土器や漆器などの展示で器のうつりかわりを見てもらい、「健康スポーツランド」ではボッチャなどのニュースポーツと和太鼓を体験してもらいました。参加した小中学生は、それぞれのランドで目を輝かせて見学したり、楽しそうに体験したりしていました。中学2年の男子生徒は「広く世界を見て、興味のあることを追求したい」と言っていました。また、協力していただいた地域の皆さんも、小中学生との交流をととても楽しんでくださり、終了後には、今後も続けてほしいとの声をたくさんいただきました。



3D プリンターの活用



展示ギャラリー



器のうつりかわり



ボッチャ体験



和太鼓体験

その後11月末に、小学3年生を対象にした「プログラミングで遊ぼう」（探究創造ランド）を実施し、3学期も、中学生と一般を対

象にした「沼沢火山の噴火と西会津町（仮）」（ふるさと未来ランド）や小学生と一般を対象にした「ニュースポーツ体験」（健康スポーツランド）を実施する予定です。また、「世界交流ランド」と「自然体験ランド」もオープンの準備を進めています。なお、各ランドには町教育委員会からコーディネーターを配置し企画・調整・運営等を担当し、地域学校協働本部とも連携して進めますので、学校の先生方に新たな負担をかけるようなことはありません。

〇〇ランドという名称には、ディズニーランドのように誰もが心から楽しんでほしい、という思いを込めました。そして、「西会津学びあいランド」をしっかりと定着させ、次代を担う子供達一人一人が、それぞれの持つ可能性を開花させるきっかけをつかんでくれることを期待するとともに、年齢や世代などを越えた交流を通じて、積極的に社会に関わる姿勢を身に付けてほしいと願います。

事務局だより

庶務副部長 馬場 俊忠

2025年巳年を迎え、令和6年度の退職校長会耶麻支部の事業も残り僅かになりました。様々な面で会員の皆様にご協力をいただき、無事一年を終えられそうなことに事務局員一同感謝申し上げます。

今年度は、コロナウィルス感染症が猛威を振るう前に行われていた新丁子屋で4月13日に総会、懇親会を開催することから始まりました。また、6月12日に二本松御苑で行われた県大会で神田優子氏が体験発表をし、6月と9月に生涯部が新規事業として会員交流の場「たまり場」を開催するなど例年にも増して充実した活動を行うことができました。大変お世話になりました。

令和7年度は4月12日（土）に新丁子屋で開催される総会、懇親会から始まる予定です。正式な案内は後日お送りいたしますので多数のご参加をお願いします。会津地区で行われる県大会は6月10日（火）に南会津町の御蔵入交流館で開催される予定です。南会津地区が主管となり、会場を含めてこれまでとは少し異なる運営となるようです。耶麻地区には16名ほど参加要請があると思われます。積極的なご参加をお願いいたします。

本会の運営について、会員数の減少や郵券代の値上げを始めとした物価高騰、個人情報保護の観点から会計や会員への連絡方法などを様々な面から見直すべき時期にきております。特に会計関係は会費を規約通りの6000円へ戻すこととなりますが、1000円増となってもあまり余裕はない状況です。

《 編集後記 》

広報部長 吉田 佳正

長い猛暑の夏を経て、どんな冬になるかと思っていましたが、1月に2度の大雪。私事になりますが、我が家は『陸の孤島』状態になり、新聞も郵便も届かず、車での外出を控える数日となってしまいました。このような状況の中、会報の原稿が届くのかと心配しておりましたが、ここに、会報「やま」をお届けすることができ、広報部としてもホッとしているところです。原稿を執筆してくださいました方々には、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

今後とも紙面の充実・発展に向け、取り組んで参りますので、書いてみたい事や書いてみたいお気持ちをもちの方々は、ぜひ、広報部までお知らせください。また、原稿執筆の話（依頼文）がきた場合などには、ふるってご協力のほどよろしくお願いいたします。